

明神 太郎 さん テスト分析レポート

中学3年生

英語

2017年5月 1学期中間考査

77 / 100点

得点率

77%

学校の採点区分 理解 50/64 表現 17/25 言語知識 10/11

目 全体所見

今回の英語（1学期中間考査）は77/100点でした。内訳は、語形変化や語彙を問う「言語知識」が10/11点、読解と文法を問う「理解」が50/64点、英文を自分で書く「表現」が17/25点です。不規則動詞の変化や複数形といった単語レベルの知識はほぼ完璧で、整序英作文や書き換えなど、形が示されている設問も安定して得点できています。失点が集まったのは、日本語をもとに英文をゼロから組み立てる場面です。使う単語も構文も正しく選んでいるのに、冠詞や to の抜け、動詞の形の作り違いといった「あと一手」で減点されている解答が並びました。

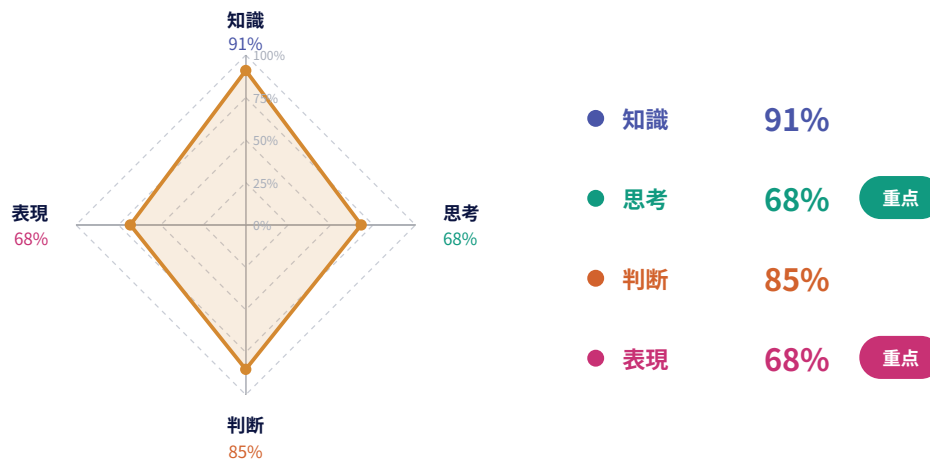
答案から見た傾向

- 01 大問【4】【5】の言語知識は10/11点。ate・drank・found などの不規則動詞、brother・Japanese・children といった語形変化を、ほぼ取りこぼしなく答えられています。
- 02 整序英作文や書き換え（大問【6】～【8】）は大半が正解しています。受け身・現在完了・比較といった中2～中3の構文そのものは、しっかり身につけています。
- 03 失点は英作文（大問【12】【13】）に集中しています。the most difficult の the 抜け、wanted to live の to 抜け、has been angryed、When are you visit Australia? など、語の選択は合っているのに形が整いきっていない誤りが並びました。

明神 太郎 さん 2017年5月 1学期中間考査（英語）

4観点の得点率

「重点」の2観点を下段で解説しています



観点別アドバイス

表現 今回の重点

英作文で、語の選択は合っているのに形が整いきらず減点された解答が並びました。the の抜け、to の抜け、angry に不要な -ed。いずれも知識ではなく見直しの問題です。英文を書き終えたら、動詞の形だけを追って一度読み返す。この30秒を毎回はさむところから始めます。

思考 今回の重点

文法・語法の設問（判断85%）に比べ、長文の内容を読み取って答える設問（思考68%）が伸びていません。形が示されていれば正しく選べる一方、英文全体から意味を追う場面で精度が落ちます。長文は段落ごとに一言、日本語で要約を書き込みながら読む練習が効きます。

学習アドバイス

全体として77点。単語レベルの「知識」が91%、文法・語法の「判断」が85%と、答えの形が示されている設問では非常に安定しています。一方、長文から意味を汲み取る「思考」と、英文をゼロから書く「表現」がともに68%。答えが「与えられている」設問から「自分で作る」設問へ移るところで、得点率のはっきり一段落ちます。構文も単語も持っているのに使い切れていない状態で、伸びしろが具体的に见えている点数です。次のページで、その中身を掘り下げます。

明神 太郎 さん 2017年5月 1学期中間考査（英語）



つまずきの深掘り分析

得点ではなく、「なぜそう答えたのか」を答案の痕跡から読み解いています。



誤答パターンの原因分析

誤答を並べると、三つのパターンに整理できました。一つ目は動詞の形の作り違いです。Study と書くべきところが Studying、has been angry とすべきところが has been angryed。形容詞に -ed を付けてしまう誤りは、過去分詞のルールを言葉ではなく感覚で当てはめた跡です。二つ目は、小さな機能語の欠落です。the most difficult の the、I have wanted to live の to。どちらも文全体の骨組みは正しく、一語だけが抜けています。三つ目は、未来を表す形の組み立て不足です。When are you visit Australia? と書かれていましたが、are you going to visit が必要でした。助動詞や不定詞を挟む一段が省略されています。三つに共通するのは、使う語と構文は正しく選んでいるという点です。間違いはすべて、選んだあとの形を最後まで整える段階で起きています。



根本的なつまずき

観点別の数字が、原因を明確に示しています。単語レベルの知識91%、文法・語法の判断85%に対して、長文の読み取りと英作文がともに68%。答えの形が与えられている設問では高い精度を出せる一方、自分で一から組み立てる設問になると得点率が一段落ちます。つまり、知識が足りないではありません。受け身も現在完了も比較も、書き換え問題では正しく操作できています。それらを白紙の上で組み立てるとき、最後の仕上げが毎回ひとつ抜けるのです。言い換えれば、覚え直すべきことはほとんど残っていません。書き終えたあとに自分の英文を点検する習慣、それだけが不足しています。



前提知識の欠落

中2で学んだ不定詞・動名詞・分詞の使い分けに、あいまいさが残っています。「-ing にするのか、to を付けるのか、原形のままか」を、動詞ごとに整理し直す必要があります。また、最上級に the が付くこと、be動詞のあとには形容詞がそのまま入ることなど、形のルールを言葉で説明できる状態にしておくと、書くときの迷いが減ります。夏の学習では、この二点を短く戻って確認してから、英作文の量を増やしていきます。

明神 太郎 さん 2017年5月 1学期中間考査（英語）

| 学習メニュー

上から優先度の順に並んでいます

1 書いた英文を「動詞の形」だけ見直す

15分 / 回

英作文を1日2文。書き終わったら意味は読まず、動詞だけを指で追って形を確認します。-ing か to か原形か、-ed は必要か。今回の失点の多くは、この30秒で防げたものです。

動詞の形

表現

2 the・to・前置詞の「抜け」チェック

20分 / 回

週3回、書いた英文を模範解答と一語ずつ突き合わせ、「自分の英文に無かった語」だけを赤で書き足します。今回抜けていたのは the と to。抜けやすい語は決まっているので、記録すると傾向が見えます。

冠詞・不定詞

表現

3 不定詞・動名詞の使い分けを戻り学習

15分 / 回

中2の不定詞・動名詞・分詞を週2回。動詞ごとに「to を取るか -ing を取るか」を一覧にまとめ、声に出して確認します。形のルールを言葉で説明できる状態を目指します。

不定詞・動名詞

中2の復習

| 学習アドバイス

今回の課題は覚える量ではなく、書いたあとの点検にあります。そのため夏の学習は、新しい文法を先に進めるよりも「自分の英文を見直す手順を体に入れる」ことに時間を配分します。上のメニューは優先度順で、どれも1日10～15分。書き終わりの30秒の確認を習慣にしましょう。



太郎さんへ

不規則動詞も受け身も現在完了も、しっかり使えていました。英作文でも、伝えたい内容は毎回きちんと英語になっています。あとは書き終わったあとに一度だけ読み返すこと。その習慣を、一緒につけていきましょう。